

【 会員投稿 】

ほあけぼちいあ の 「つれづれのまま」

江戸時代の「食のはなし」 [2]

”からす と いか ” ”すずめ と はまぐり ”

前回の貝原益軒 は江戸時代前期の学者であった。その二代ほど後の中期に 安藤昌益 というユニークな医者思想家の学者がいたということであるが、知る人ぞ知るといふ人。

この学者、数多くの著作を残しているも相当に荒唐無稽なるものが多い時期まで どうもあまり相手にされていなかったらしい。

この人の著作「統道眞伝」から2つご紹介させていただく。

☆☆ 人の食(米)は道の太本

食は人・物(動植物)与(とも)に其の親にして道の太本なり。故に転定(てんち・天地)、人・物、皆、食より生じ食を為す。故に食無き則(とき)は、人・物即ち死す。食を為す則(とき)は人・物常なり。故に人・物の食は即ち人・物なり。故に人・物は人・物に非ず。食は人・物なり。分けて人は米穀を食して人と則(なれば)、人は乃(すなわ)ち米穀なり。人唯(ただ)食の為めに人と成る迄(まで)なり。

☆☆ 鳥獸魚 (人里の鳥類)

鳥(からす)は人家の煙気の蒸し結凝して生ず。故に全く黒なり。人氣・穀気の感(はたら)き有る故に、人食の穀類を食わんことを欲す。人家の煙気に生ずる故に、人の患気感じて、未然に機感を受くる怪鳥にして、常ならざることある鳥なり。人氣の感(はたら)き有る故に早朝に鳴(な)きて、人の寐を起し、業職の時を知らしむ。人氣の感(はたら)き有る故に反哺の孝有り。煙気は進火の気、極偏の気に生ずる故、早く易革して形化す。老死すること無くして、海中に入り、賊(いか)と為る。腹に墨有り、鳥(からす)の羽の黒気の凝なり。鳥類は進偏の気なる故、多くは退気の水に入りて形を易(か・変)う。是れ進気の偏極して退偏に行く。乃(すなわ)ち水火の偏気迫りて進退するなり。乃(すなわ)ち自然の妙用なり。鳥の肉は歯味(しおみ)にして冷、食うべからず。

雀は煙気薄く軒間に凝(かたま)りて生ず。故に薄霞の色なり。首尾は対相なり。凡て鳥類の中(うち)、雀は小にして精の厚きものなり。是れ煙気の薄きに生じ、水気の未極なる故なり。凡て煙は火中・物中の水気なり。進気は十一月に初発して、十月に終る。故に横偏の進気に生ずる雀は十月に至りて進気極まる故、進偏気の雀は此の十気(とき)に於いて海中に入り蛤(はまぐり)と為(な)る。雀の肉は甘味にして情温、人の沬(そ・台)を助く。多食すれば、毒と為(な)る。

「江戸時代の食のはなし」は、以前シリーズで掲載しましたが、最終章の本編の掲載を失念しておりました。ここに遅ればせながら掲載をさせて頂きました。お詫び申し上げます。

尾島ねぶた祭りのご案内と参加のお願い

今年も尾島ねぶたまつりが、8月14日(木)、15日(金)の2日間行われますが、「三菱ねぶた」は今年も15日(金)のみ出陣となります。会員皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

・集合：17時、睦荘北側テント前 ・身仕度：事務局からの支給品はハッピーと豆絞りのみで、履物・ズボン は自前のもので対応下さるようお願いいたします。

あらかじめ事務局に参加のご連絡をお願いいたします。なお、ねぶた会場清掃・片づけ(8月15日16日)についても、ご協力をよろしくお願いいたします。(朝6時、4丁目交差点集合)

祝 長寿 (喜寿)

茂木 照平 様

太田市安養寺町

77歳(1937/07/12)